研究報告

特色ある研究
笑都大阪の笑いは健在か？現代人が「笑う」形式の研究
～追手門学院大学生の「笑い」に関する意識調査の結果と分析～

笑学研究所共同研究報告（文責：高垣伸博）

はじめに

昨年度の報告でも著したように、笑学研究所の目指すべき姿は『教育・文化のクローバル化に対応できるコミュニケーション力を備えた人材育成のための笑いと知の融合をめざした、総合的な学術研究所』であり、また、設立方針の中に「笑いを活用した教育プログラムの研究」がある。2016年度春学期から開講した「笑学入門」はその一環と言える。（2017年度、2018年度春学期も開講）

この授業の目的は学生が「笑い」への理解を深め、その必要性、効用を学びとり、それらを日常に取り込み、コミュニケーション力向上の一助にすることである。

残念ながら2019年春の新キャンパス開設による2キャンパス体制では、全学部全学年対象に開講することは叶わないので2018年度春学期が最後となったが、2019来年度以降この流れは国際教養学部国際日本学科「笑学コース」へと繋いでゆくつもりである。

この研究は「現代の若者」つまり追手門学院大学生の「笑いに」対する意識はどうなのかを経年調査することで追大生の「笑いの形式」、解りやすく言い変えるならば「笑いに関する最大公約数」を見出し、その分析結果を基にした「笑いを活用した教育プログラム」の開発が目的である。

調査方法

2016年度同様に、無記名による紙アンケートで合計24問を、主に5段階（1～5）の中からの選択回答方式と解答例からの選択、また自由記述も用意した。（最終頁アンケート用紙参照）

実施期間は2017年度内、追手門学院大学生（1～4年）377人（男性216人　女性150人　性別無回答11人）を対象に行った。

なお5段階選択方式の集計に関しては、4、5の回答はまとめて「当てはまる（積極派）」、1、2の回答はまとめて「当てはまらない（消極派）」として報告している。

また、報告書は2016年度の報告書をベースに2017年度調査分を比較した上で、両年度合算集計

も示しながら、分析報告を行っている。（※2016 年度集計数字に一部誤りがあったので、2016 年度分を 2017 年度アンケートデータと共にを改めて集計した。その集計データを基にしていることをお断りしておく。）

1、人間関係（コミュニケーション能力）と家庭環境

「**あなたはよく喋るタイプですか？**」（表①-a）との問いに「当てはまる」との回答は 2016 年は約 46%、2017 年も同様に約 46%、2 か年の平均 46% で、半数弱は「よく喋るタイプ」だと自認していることが再確認できた。一方で「無口」に「当てはまる」と回答した学生が 2016 年は約 26% であったが、2017 年は約 23% で若干少なかったものの、2 か年平均は約 25%、4 分の 1 の学生が「無口」と自認しているということだ。

表①-a　あなたはよく喋るタイプですか？

2016	無口	1	2	3	4	5	よく喋る
		19	105	134	152	72	
		3.90%	21.80%	27.80%	31.50%	14.90%	
2017	無口	1	2	3	4	5	よく喋る
		12	76	118	102	69	
		3.20%	20.20%	31.30%	27.10%	18.30%	
合計	無口	1	2	3	4	5	よく喋る
		31	181	252	254	141	
		3.60%	21.10%	29.30%	29.60%	16.40%	

では男女で違いはあるのだろうか。（表①-b）2 か年平均で「よく喋る」のは男性が約 42%、女性が約 52% と女性のほうが 10% 上回っている。女性の方が「お喋り」ということか。一方で「無口」は男性が女性より約 2% 上回っていることがわかる。

表①-b　あなたはよく喋るタイプですか？男女別

無口	1	2	3	4	5	よく喋る
	29.96%			41.85%		
【男性】	26	110	128	121	69	
【女性】	4	63	115	128	68	
	17.70%			51.85%		

では、友人とのコミュニケーションはどうだろうか。「**友人とはよく喋りますか？**」（表②-a）に「当てはまる」は 2016 年が約 75%、2017 年は約 72% で若干少ないが、2 か年平均は約 74%。2 か年での差はほとんど無い。男女別 2 か年平均（表②-b）でも女性が約 6% 高いものの、ともに 7 割を上回っている。

表②-a　友人とはよく喋りますか？

2016	喋らない	1	2	3	4	5	喋る
		7	28	87	169	191	
		1.50%	5.80%	18.00%	35.10%	39.60%	

2017	喋らない	1	2	3	4	5	喋る
		9	17	80	122	149	
		2.40%	4.50%	21.20%	32.40%	39.50%	

合計	喋らない	1	2	3	4	5	喋る
		16	45	167	291	340	
		1.90%	5.20%	19.40%	33.90%	39.60%	

表②-b　友人とはよく喋りますか？男女別

喋らない	1	2	3	4	5	喋る
	8.59%			71.10%		
【男性】	13	26	92	149	174	
【女性】	2	16	68	129	163	
	4.76%			77.20%		

では、より気心が知れている家族とはどうだろうか。「**家族とよく喋りますか？**」（表③-a）との問いに「当てはまる」と回答したのは 2016 年が約 59%、2017 年も約 59%。追大生の約 6 割は家族と喋っている。

表③-a　家族とよく喋りますか？

2016	喋らない	1	2	3	4	5	喋る
		23	56	118	149	136	
		4.80%	11.60%	24.50%	30.90%	28.20%	

2017	喋らない	1	2	3	4	5	喋る
		14	30	109	109	115	
		3.70%	8.00%	28.90%	28.90%	30.50%	

合計	喋らない	1	2	3	4	5	喋る
		37	86	227	258	251	
		4.30%	10.00%	26.40%	30.00%	29.20%	

この家族との関係性においては、男女差があるのではないだろうか。

そこで 2 か年平均での男女差の結果を見てみると（表③-b）女性が約 70% と、男性より 20% 上回っていることがわかる。その裏づけとして、「家族と喋らない」は女性のほうが少ない。

表③-b　家族とよく喋りますか？男女別

喋らない	1	2	3	4	5	喋る
	17.18%			50.88%		
【男性】	26	52	145	137	94	
【女性】	10	30	74	111	153	
	10.58%			69.84%		

では、3 の設問「友人とよく喋りますか？」の結果から、それぞれの関係性を 2016 年、2017 年、2 か年平均で考察してみる。

まず、「よく喋るタイプ」と自認している学生のうちで「友人とよく喋る」に「当てはまる」（表④）、つまり「よく喋り」「友人ともよく喋る」は 2016 年は約 45%、2017 年が 43%、2 か年平均では 44% と、各年であまり差がないことがわかった。

表④　あなたはよく喋るタイプですか？×友人とはよく喋りますか？

2016		喋らない				喋る	
	Q1/Q3	1	2	3	4	5	
無口	1	7	2	4	2	4	27
	2		18	40	38	9	5.60%
	3		5	38	57	34	
	4		2	4	66	80	216
よく喋る	5		1	1	6	64	44.80%

2017		喋らない				喋る	
	Q1/Q3	1	2	3	4	5	
無口	1	5	2	3		2	18
	2	3	8	32	29	4	4.77%
	3	1	4	39	46	28	
	4		2	6	39	55	162
よく喋る	5		1		8	60	43%

合計		喋らない				喋る	
	Q1/Q3	1	2	3	4	5	
無口	1	12	4	7	2	6	45
	2	3	26	72	67	13	5.24%
	3	1	9	77	103	62	
	4		4	10	105	135	378
よく喋る	5		2	1	14	124	44%

また「よく喋るタイプ」と自認している学生のうちで「家族ともよく喋る」に「当てはまる」（表⑤）も同様に各年で差はなかった。

表⑤　あなたはよく喋るタイプですか？×家族とよく喋りますか？

2016		喋らない				喋る		
	Q1/Q4	1	2	3	4	5		
無口	1	8	4	4		3		35
	2	4	19	30	41	11		7.26%
	3	4	12	48	44	26		
	4	3	18	26	48	57		160
よく喋る	5	4	3	10	16	39		33.20%

2017		喋らない				喋る		
	Q1/Q4	1	2	3	4	5		
無口	1	5	1	4	1	1		21
	2	5	10	28	21	12		5.57%
	3	2	8	48	33	27		
	4	1	5	19	42	35		129
よく喋る	5	1	6	10	12	40		34.20%

合計		喋らない				喋る		
	Q1/Q4	1	2	3	4	5		
無口	1	13	5	8	1	4		56
	2	9	29	58	62	23		6.52%
	3	6	20	96	77	53		
	4	4	23	45	90	92		289
よく喋る	5	5	9	20	28	79		33.60%

「友人とも家族ともよく喋る」（表⑥）も同様の結果となり、追大生の 50% は「友人とも家族ともよく喋る」と言える。半面「友人とも家族とも喋らない」という心配な学生が 3% 弱存在する。

表⑥　友人とはよく喋りますか？×家族とよく喋りますか？

2016		喋らない				よく喋る		
	Q3/Q4	1	2	3	4	5		
喋らない	1	6	1					15
	2		8	9	9	2		3.12%
	3	1	16	46	16	7		
	4	9	17	34	82	27		251
よく喋る	5	7	14	28	42	100		52.18%

2017		喋らない				よく喋る		
	Q3/Q4	1	2	3	4	5		
喋らない	1	4		2	1	2		9
	2	2	3	5	6	1		2.39%
	3	1	5	49	18	7		
	4	4	14	35	44	25		189
よく喋る	5	3	8	18	40	80		50.13%

合計		喋らない				よく喋る		
	Q3/Q4	1	2	3	4	5		
喋らない	1	10	1	2	1	2		24
	2	2	11	14	15	3		2.79%
	3	2	21	96	34	14		
	4	13	31	69	126	52		440
よく喋る	5	10	22	46	82	180		51.22%

人間の成長に大きくかかわるのが家庭環境であることは言うまでもない。そこで、追大生が自分の家庭をどう感じているのか。

「**楽しい家庭ですか？**」（表⑦）という問いに「当てはまる」と回答した学生が 2016 年は約 61％、2017 年は約 64％、2 か年平均で約 62％ という結果である。

表⑦　楽しい家庭ですか？

2016	思わない	1	2	3	4	5	楽しい家庭
		23	53	110	170	126	
		4.80%	11.00%	22.80%	35.30%	26.10%	

2017	思わない	1	2	3	4	5	楽しい家庭
		15	31	91	127	113	
		4.00%	8.20%	24.10%	33.70%	30.00%	

合計	思わない	1	2	3	4	5	楽しい家庭
		38	84	201	297	239	
		4.40%	9.80%	23.40%	34.60%	27.80%	

では「よく喋るタイプ」に「当てはまる」学生のうち、どれくらいの人数が「とても楽しい家庭」に「当てはまる」のか。（表⑧）これも 2 か年の結果はほぼ同様で、2 か年平均約 34％ の学生が「当てはまる」つまり「自分はよく喋り」「とても楽しい家庭だ」ということである。

表⑧　あなたはよく喋るタイプですか？×　楽しい家庭ですか？

2016		思わない				楽しい家庭	
	Q1/Q5	1	2	3	4	5	
無口	1	8	2	3	3	3	32
	2	3	19	27	39	17	6.64%
	3		12	50	49	23	
	4	8	13	22	65	44	162
よく喋る	5	4	7	8	14	39	33.60%

2017		思わない				楽しい家庭	
	Q1/Q5	1	2	3	4	5	
無口	1	5	1	1	3	2	26
	2	4	16	20	20	16	6.90%
	3	3	5	38	41	31	
	4	1	6	25	42	28	127
よく喋る	5	2	3	7	21	36	33.70%

合計		思わない				楽しい家庭	
	Q1/Q5	1	2	3	4	5	
無口	1	13	3	4	6	5	58
	2	7	35	47	59	33	6.75%
	3	3	17	88	90	54	
	4	9	19	47	107	72	289
よく喋る	5	6	10	15	35	75	33.60%

では「家族とよくしゃべり」「楽しい家庭」に「当てはまる」と答えた学生はどのくらいいるのか。（表⑨）

2016 年に比べて 2017 年のほうが若干少なかったが誤差の内か、2 か年平均約 52% の学生が「家族とよくしゃべり」「楽しい家庭」に「当てはまる」と答えた。

わずか 2 か年のデータではあるが、各年で大きな差は見受けられない。この結果だけで、敢えて恐れずに判断すると「**家族とよく喋り、楽しい家庭に育つとよく喋る人になる**」と言うことができる。

表⑨　家族とよく喋りますか？×楽しい家庭ですか？

2016		思わない				楽しい家庭	
	Q4/Q5	1	2	3	4	5	
喋らない	1	9	12	1	1		45
	2	9	15	20	10	2	9.34%
	3	2	19	61	30	6	
	4	3	6	20	93	27	247
喋る	5		1	8	36	91	51.24%

2017		思わない				楽しい家庭	
	Q4/Q5	1	2	3	4	5	
喋らない	1	10	2	1		1	29
	2	2	15	10	3		7.69%
	3		9	61	31	8	
	4	2	4	17	67	19	197
喋る	5	1	1	2	26	85	49.60%

合計		思わない				楽しい家庭	
	Q4/Q5	1	2	3	4	5	
喋らない	1	19	14	2	1	1	74
	2	11	30	30	13	2	8.61%
	3	2	28	122	61	14	
	4	5	10	37	160	46	444
喋る	5	1	2	10	62	176	51.69%

さて、この研究は「若者の笑いに対する意識調査」ではあるが、その目的は「コミュニケーションに役立つ笑い（の理解力）を身に付ける」ためのテキスト作成である。ここでいうコミュニケーションとは 1 対 1 のコミュニケーションはいうまでもなく、プレゼンテーション、つまり大勢の前で「喋る」ことでもある。

半数弱の追大生が「よく喋るタイプ」だと自認しているが、**「あなたは大勢の前で喋るのが得意ですか？」**（表⑩-a）との問いに、「当てはまる」は 2016 年が約 19%、2017 年は 18%、平均してわずか 18% 強の学生しか大勢の前で喋る自信を持っていないのである。一方、人前で喋るのが苦手な学生も各年大差なく、平均で 6 割弱もの学生が「人前で喋るのは苦手」なのである。

表⑩-a　あなたは大勢の前で喋るのは得意ですか？

2016	苦手	1	2	3	4	5	得意
		144	129	118	66	25	
		29.90%	26.80%	24.50%	13.70%	5.20%	

2017	苦手	1	2	3	4	5	得意
		110	103	96	48	20	
		29.20%	27.30%	25.50%	12.70%	5.30%	

合計	苦手	1	2	3	4	5	得意
		254	232	214	114	45	
		29.60%	27.00%	24.90%	13.30%	5.20%	

ちなみに 2 か年平均の男女差を見てみると（表⑩-b）男性のほうが「得意」と答えた割合が 6% 高く、一方で「苦手」の割合は女性のほうが約 8% 高い。つまり、女性のほうが人前に出ると控え

めになるということだ。

表⑩-b　あなたは大勢の前で喋るのは得意ですか？男女別

苦手	1	2	3	4	5	得意
	51.10%			21.37%		
【男性】	115	117	125	67	30	
【女性】	132	107	81	44	14	
	68.70%			15.30%		

そんな中「よく喋るタイプ」かつ「大勢の前で喋るのが得意だ」（表⑪）という頼もしい学生が2016年は約17%存在したが、果たして2017年は微減の15%、「よく喋り、人前で喋ることが得意」な学生は平均約16%である。ここを伸ばすことが重要な課題である。

表⑪　あなたはよく喋るタイプですか？×あなたは人前で喋るのは得意ですか？

2016		苦手				得意	
	Q1/Q2	1	2	3	4	5	
無口	1	18	1				107
	2	62	26	15	2		22.20%
	3	35	52	38	7	2	
	4	19	45	46	40	2	80
よく喋る	5	10	5	19	17	21	16.60%

2017		苦手				得意	
	Q1/Q2	1	2	3	4	5	
無口	1	9	1	1		1	76
	2	45	21	9		1	20.20%
	3	32	45	32	7	2	
	4	16	28	37	18	3	57
よく喋る	5	8	8	17	23	13	15.10%

合計		苦手				得意	
	Q1/Q2	1	2	3	4	5	
無口	1	27	2	1		1	183
	2	107	47	24	2	1	21.30%
	3	67	97	70	14	4	
	4	35	73	83	58	5	137
よく喋る	5	18	13	36	40	34	15.90%

「大勢の前で喋るのが得意だ」とは微妙に異なるが、人間関係を築く上である程度重要な要素であり、「積極性」の表われでもあるのが「目立ちたがり」と言う性格である。

そこで「**あなたは目立ちたがり屋ですか？**」（表⑫-a）という設問に、2016年は約17%、2017年は19%、2か年平均17.5%と「目立ちたがり屋」の存在は20%にも届かない結果である。

表⑫-a　あなたは目立ちたがり屋ですか？

2016	控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
		104	148	148	61	21	
		21.60%	30.70%	30.70%	12.70%	4.40%	

2017	控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
		71	109	129	48	20	
		18.80%	28.90%	34.20%	12.70%	5.30%	

合計	控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
		175	257	277	109	41	
		20.40%	29.90%	32.20%	12.70%	4.80%	

この「目立ちたがり屋」の男女差はどうだろうか。（表⑫-b）そこで 2 か年平均の結果を見てみると、女性のほうが 5% ほど低いが、男女で大きな差は無いようだ。一方、「控え目」のほうはより男女差が少なく、共に約半数を占めている。

表⑫-b　あなたは目立ちたがり屋ですか？　男女別

控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
	48.68%			19.82		
【男性】	93	128	143	64	26	
【女性】	73	123	127	41	14	
	51.85			14.55		

さて約 60% が「家族とよく喋る」追大生であるが「よく喋る楽しい家庭」における「笑い」はどうなのだろうか。

「**家族を笑わせますか？**」（表⑬）との問に「当てはまる」と答えたのが 2 か年平均で約 46%、半数弱が「家族を笑わせる」のである。しかし「楽しい家庭」と答えた約 60% と比べると 10% 強少ないことになる。

表⑬　家族を笑わせますか？

2016	笑わせない	1	2	3	4	5	笑わせる
		42	85	127	152	76	
		8.70%	17.60%	26.30%	31.50%	15.80%	

2017	笑わせない	1	2	3	4	5	笑わせる
		24	61	126	103	63	
		6.40%	16.20%	33.40%	27.30%	16.70%	

合計	笑わせない	1	2	3	4	5	笑わせる
		66	146	253	255	139	
		7.70%	17.00%	29.50%	29.70%	16.20%	

では「家族を笑わせる」のはどんな学生なのか。

当然「よく喋る」に「当てはまり」かつ「家族を笑わせる」に「当てはまる」と言うことであ

り、それに該当する学生は 2016 年が全体の約 31% であった。（表⑭）2017 年は約 27% の学生が「よく喋り、家族を笑わせる」と答えた。2 か年平均は 30% 弱で、この数字を多いと見るか、少ないと見るか。

表⑭　あなたはよく喋るタイプですか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない				笑わせる	
	Q1/Q3	1	2	3	4	5	
無口	1	11	1	3	2	2	55
	2	10	33	30	27	5	11.40%
	3	5	26	60	30	13	
	4	9	18	27	73	25	149
よく喋る	5	7	7	7	20	31	30.90%

2017		笑わせない				笑わせる	
	Q1/Q6	1	2	3	4	5	
無口	1	4	3	3		2	39
	2	10	22	24	13	7	10.34%
	3	4	20	53	32	9	
	4	1	12	34	34	21	103
よく喋る	5	5	4	12	24	24	27.30%

合計		笑わせない				笑わせる	
	Q1/Q3	1	2	3	4	5	
無口	1	15	4	6	2	4	94
	2	20	55	54	40	12	10.94%
	3	9	46	113	62	22	
	4	10	30	61	107	46	252
よく喋る	5	12	11	19	44	55	29.30%

次に「家族とよく喋る」と「家族を笑わせる」の関係を見てみると（表⑮）、2016 年は 40% 強、2017 年もほぼ 39% と、平均約 40% の学生が家族とよく喋り、家族を笑わせている。

表⑮　家族とよく喋りますか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない				笑わせる	
	Q4/Q6	1	2	3	4	5	
喋らない	1	15	6	1	1		60
	2	16	23	7	8	2	12.45%
	3	8	33	55	17	5	
	4	1	22	48	66	12	195
喋る	5	2	1	16	60	57	40.46%

2017		笑わせない				笑わせる	
	Q4/Q6	1	2	3	4	5	
喋らない	1	10	1	1	1	1	32
	2	7	14	7	2		8.49%
	3	4	32	58	13	2	
	4		9	41	51	8	147
喋る	5	3	5	19	36	52	38.99%

合計		笑わせない				笑わせる	
	Q4/Q6	1	2	3	4	5	
喋らない	1	25	7	2	2	1	92
	2	23	37	14	10	2	10.71%
	3	12	65	113	30	7	
	4	1	31	89	117	20	342
喋る	5	5	6	35	96	109	39.81%

また「楽しい家庭」で「家族を笑わせる」（表⑯）となると2016年は約42%、2017年は約40%、平均で41%。この結果からも約40% の学生が楽しい円満な家庭環境であり、「楽しい家庭」環境が「よく喋り」「笑わせる」ことに影響を与えていることは間違いないといえよう。

表⑯　楽しい家庭ですか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない				笑わせる	
	Q5/Q6	1	2	3	4	5	
思わない	1	16	6		1		58
	2	14	22	11	6		12.24%
	3	6	34	51	14	5	
	4	4	19	47	86	14	202
楽しい家庭	5	2	4	18	45	57	41.91%

2017		笑わせない				笑わせる	
	Q5/Q6	1	2	3	4	5	
思わない	1	9	3	1	1	1	35
	2	7	16	7		1	9.28%
	3	6	19	54	11	1	
	4	2	17	39	56	13	151
楽しい家庭	5		6	25	35	47	40.05%

合計		笑わせない				笑わせる	
	Q5/Q6	1	2	3	4	5	
思わない	1	25	9	1	2	1	93
	2	21	38	18	6	1	10.83%
	3	12	53	105	25	6	
	4	6	36	86	142	27	353
楽しい家庭	5	2	10	43	80	104	41.09%

2、良好な人間関係を育む「笑い」

2-1　能動的な「笑い」

「笑う」という結果を引きだす能動的な行為、つまり「笑わせる」と言う行為に関して考えてみたい。

前項では「家族を笑わせますか？」と言う設問に関してふれたが、笑わす対象を「家族」に限定せずに「**人を笑わせるのが得意ですか？**」（表⑰-a）という設問にしたところ、2016 年は「当てはまる」が 18% 弱であったが、2017 年は約 20%、2 か年平均約 19%。それに対して「当てはまらない」が 2 か年平均で約 40% である。

「笑わせる」という能動的な日常行為に対して、対象が「ウケている」と判断するか「ウケていない」と判断するかによって「笑わせるのが得意か否か」の回答は迷うところであろう。

表⑰-a　人を笑わせるのは得意ですか？

2016	苦手	1	2	3	4	5	得意
		77	125	195	61	24	
		16.00%	25.90%	40.50%	12.70%	5.00%	

2017	苦手	1	2	3	4	5	得意
		38	103	160	49	27	
		10.10%	27.30%	42.40%	13.00%	7.20%	

合計	苦手	1	2	3	4	5	得意
		115	228	355	110	51	
		13.40%	26.50%	41.30%	12.80%	5.90%	

では男女差はどうであろうか。（表⑰-b）2 か年平均で見ると、「得意」は男性の 92 人に対して女性が 64 人で大きな差が出たが、一方の「苦手」に至ってはほぼ同率である。関西以外でアンケートを採ると、あるいは、関西圏以外の学生だけを対象にすると違った結果が出るのではないだろうか。

表⑰-b　人を笑わせるのは得意ですか？男女別

苦手	1	2	3	4	5	得意
	39.20%			20.30%		
【男性】	62	116	184	62	30	
【女性】	49	103	162	44	20	
	40.20%			16.90%		

では「よく喋る」ことと「人を笑わせる」ことの関係はどうなのか。「**よく喋りかつ人を笑わせるのが得意**」（表⑱）と自認する学生は 2016 年は約 15%、2017 年は微増の約 16%、平均約 15%。「よく喋る」ことは「笑わせる」ことの必要最低条件ではあるだろうが、言葉数が少なくても「笑

わせるのが得意」とい場合もあるだろう。しかし、やはり人を笑わせるには、日ごろから喋ることが必要だということである。

表⑱　あなたはよく喋るタイプですか？×人を笑わせるのは得意ですか？

2016		苦手				得意	
	Q1/Q12	1	2	3	4	5	
無口	1	13	1	3	2		90
	2	39	37	24	4	1	18.67%
	3	14	43	69	7	1	
	4	8	37	75	26	6	70
よく喋る	5	3	7	24	22	16	14.52%

2017		苦手				得意	
	Q1/Q12	1	2	3	4	5	
無口	1	6	3	2		1	60
	2	20	31	22	1	2	15.92%
	3	7	40	60	9	2	
	4	4	17	54	21	6	61
よく喋る	5	1	12	22	18	16	16.18%

合計		苦手				得意	
	Q1/Q12	1	2	3	4	5	
無口	1	19	4	5	2	1	150
	2	59	68	46	5	3	17.46%
	3	21	83	129	16	3	
	4	12	54	129	47	12	131
よく喋る	5	4	19	46	40	32	15.25%

因みに「人を笑わせるのが得意」に「当てはまる」と回答した学生（3 の回答も含む）への「**あなたは漫才で言うとどちらのタイプ（ボケ＆ツッコミ）ですか？**」（表⑲-a）という設問に対して興味深い結果が出た。

表⑲-a　あなたは漫才で言うとどちらのタイプですか？

2016	ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
		43	64	137	58	35	
		12.80%	19.00%	40.70%	17.20%	10.40%	

2017	ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
		29	52	102	60	34	
		10.50%	18.80%	36.80%	21.70%	12.30%	

合計	ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
		72	116	239	118	69	
		11.70%	18.90%	38.90%	19.20%	11.20%	

2016 年では「ツッコミ」タイプの 1 と 2、「ボケ」タイプの 4、5 が 31.8% 対 27.6%、2017 年が 29.3% 対 34%、2 か年平均はなんと 30.6%（188 人）対 30.4%（187 人）とほぼ同率（同数）であった。

この結果は偶然であろうが、**追大生が漫才コンビを組む際に役割分担で揉めることはなさそう**

だ。

因みに男女差はあるのだろうか。（表⑲-b）2ヵ年平均の男女別でも、それぞれでツッコミとボケの割合はほぼ同等であった。（※前出の表⑲-a と表⑲-b の人数が合わないのは、性別未回答があるため）

表⑲-b　あなたは漫才で言うとどちらのタイプですか？

ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
	31.13%			31.74%		
【男性】	42	62	124	63	43	
【女性】	28	52	106	51	25	
	30.53%			29.01%		

さて「笑わせる」にも様々な手法があるが、日常的に「冗談」が言えるかどうか重要である。そこで「**あなたはよく冗談を言うタイプですか？**」（表⑳）との設問に対して「当てはまる」と答えた学生は 2016 年が約 55%、2017 年は約 54% で半数以上の学生が「冗談を言うタイプ」と自認している。

表⑳　あなたはよく冗談を言うタイプですか？

2016	言わない	1	2	3	4	5	よく言う
		19	62	136	162	102	
		4.00%	12.90%	28.30%	33.70%	21.20%	

2017	言わない	1	2	3	4	5	よく言う
		10	46	118	123	79	
		2.70%	12.20%	31.40%	32.70%	21.00%	

合計	言わない	1	2	3	4	5	よく言う
		29	108	254	285	181	
		3.40%	12.60%	29.60%	33.30%	21.10%	

では「よく喋る」に該当し「よく冗談を言う」にも該当する学生はどうだろう。（表㉑）2016 年も 2017 年も大差なく、2 ヵ年平均約 35%、つまり追大生の 3 分の 1 強が「よく喋り、しかもよく冗談をいう」のである。

表㉑　あなたはよく喋るタイプですか？×あなたはよく冗談を言うタイプですか？

2016		言わない				よく言う	
	Q1/Q7	1	2	3	4	5	
無口	1	6	2	3	3	5	47
	2	8	31	41	21	4	9.77%
	3	1	15	57	44	16	
	4	3	12	27	79	31	171
よく喋る	5	1	2	8	15	46	35.60%

2017		言わない				よく言う	
	Q1/Q7	1	2	3	4	5	
無口	1	1	4	4		3	32
	2	7	20	26	19	4	8.51%
	3	1	12	54	40	10	
	4	1	5	24	53	19	126
よく喋る	5		5	10	11	43	33.51%

合計		言わない				よく言う	
	Q1/Q7	1	2	3	4	5	
無口	1	7	6	7	3	8	79
	2	15	51	67	40	8	9.22%
	3	2	27	111	84	26	
	4	4	17	51	132	50	297
よく喋る	5	1	7	18	26	89	34.66%

では前出の「家族を笑わせますか？」と「よく冗談を言うタイプですか？」の関係はどうだろうか。（表㉒）2016 年が約 35%、2017 年が約 33%、平均で約 34% が「当てはまる」と答えた。

表㉒　あなたはよく冗談を言うタイプですか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない				笑わせる	
	Q7/Q6	1	2	3	4	5	
言わない	1	7	6	4	2		45
	2	7	25	17	12	1	9.36%
	3	8	25	58	36	9	
	4	11	19	36	71	25	168
よく言う	5	9	9	12	31	41	34.93%

2017		笑わせない				笑わせる	
	Q7/Q6	1	2	3	4	5	
言わない	1	3	1	4	2		30
	2	3	23	16	3	1	7.98%
	3	8	16	58	29	7	
	4	5	17	35	48	18	124
よく言う	5	5	3	13	21	37	32.98%

合計		笑わせない				笑わせる	
	Q7/Q6	1	2	3	4	5	
言わない	1	10	7	8	4		75
	2	10	48	33	15	2	87.51%
	3	16	41	116	65	16	
	4	16	36	71	119	43	292
よく言う	5	14	12	25	52	78	34.07%

では「よく冗談を言うタイプ」で「人を笑わせるのが得意」な学生は果たしてどれくらいいるのか。（表㉓）これに「当てはまる」つまり「よく冗談を言い、人を笑わせるのが得意」な学生は

2016 年が約 15%、2017 年が約 17%、平均で約 16% となった。

表㉓　あなたはよく冗談を言うタイプですか？×人を笑わせるのは得意ですか？

2016		苦手				得意	
	Q7/Q12	1	2	3	4	5	
言わない	1	15	2	2			67
	2	19	31	9	3		13.93%
	3	21	46	60	8	1	
	4	11	37	86	26	2	73
よく言う	5	10	9	38	24	21	15.18%

2017		苦手				得意	
	Q7/Q12	1	2	3	4	5	
言わない	1	7	2	1			44
	2	14	21	10	1		11.70%
	3	10	40	58	7	3	
	4	4	33	59	22	5	65
よく言う	5	3	6	32	19	19	17.29%

合計		苦手				得意	
	Q7/Q12	1	2	3	4	5	
言わない	1	22	4	3			111
	2	33	52	19	4		12.95%
	3	31	86	118	15	4	
	4	15	70	145	48	7	138
よく言う	5	13	15	70	43	40	16.10%

2-2　受動的な「笑い」

能動的な「笑い」である「笑わせる」行為に対して、受動的な「笑い」とは、意図的に「笑わされた」あるいは何らかの要因によって「笑わされた」結果としての、「笑う」という行為のことである。この「笑う」とう行為に関して学生はどう自己分析しているのか。

「**あなた自身はよく笑うタイプですか？**」（表㉔-a）との問いに、2 ヵ年平均で約 73% が「当てはまる」と回答している。

表㉔-a　あなた自身はよく笑うタイプですか？

2016	笑わない	1	2	3	4	5	笑う
		5	37	91	157	179	
		1.10%	7.90%	19.40%	33.50%	38.20%	

2017	笑わない	1	2	3	4	5	笑う
		3	30	63	119	154	
		0.80%	8.10%	17.10%	32.20%	41.70%	

合計	笑わない	1	2	3	4	5	笑う
		8	67	154	276	333	
		1.00%	8.00%	18.40%	32.90%	39.70%	

コミュニケーションを良好にするための「笑い」は、「笑わせる」だけでは駄目で、相手へのリアクションとしての「笑う」行為も重要である。

「よく笑う」に関しては、女性の方が当てはまる率が高いように思うのだが（表㉔-b）2 ヵ年平

均ではやはり女性の方が 12% 高い結果が出ている。**女性の方がよく笑うのだ。**

表㉔-b　あなた自身はよく笑うタイプですか？男女別

笑わない	1	2	3	4	5	笑う
	11.79%			67.80%		
【男性】	6	46	90	152	147	
【女性】	2	17	56	117	179	
	5.12%			79.78%		

また時と場合によっては「愛想笑い」も必要である。そこで「**あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？**」（表㉕-a）と聞いてみた。

2016 年は「当てはまる」のが約 62%、2017 年は約 70%、平均で約 66% の学生が「好意的に笑う」と言う結果だ。

表㉕-a　あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？

2016	好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
		7	31	141	183	114	
		1.50%	6.50%	29.60%	38.40%	23.90%	

2017	好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
		4	12	98	158	104	
		1.10%	3.20%	26.10%	42.00%	27.70%	

合計	好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
		11	43	239	341	218	
		1.30%	5.00%	28.10%	40.00%	25.60%	

「好意的に笑う」に男女差はあるだろうか。（表㉕-b）男性が約 64%、女性が約 69% で、大きな差はなかった。

表㉕-b　あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？

好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
	6.65%			63.64%		
【男性】	7	23	134	181	106	
【女性】	4	19	92	151	108	
	6.15%			69.25%		

因みに「笑う」ことと「笑わせる」ことの関係性はどうなのか。（表㉖）

「自分もよく笑い、かつ、人を笑わせるのが得意」に「当てはまる」のは 2 か年平均で約 17% であった。

表㉖　あなた自身はよく笑うタイプですか？×笑わせるのは得意ですか？

2016		苦手				得意		
	Q9/Q12	1	2	3	4	5		
笑わない	1	3			1	1		33
	2	17	13	6	1			7.04%
	3	18	27	42	3	1		
	4	19	48	67	22	1		74
笑う	5	19	32	77	32	19		15.78%

2017		苦手				得意		
	Q9/Q12	1	2	3	4	5		
笑わない	1	2		1				24
	2	10	12	6		2		6.50%
	3	5	24	30	3	1		
	4	8	32	58	18	3		68
笑う	5	12	32	63	27	20		18.43%

合計		苦手				得意		
	Q9/Q12	1	2	3	4	5		
笑わない	1	5		1	1	1		57
	2	27	25	12	1	2		6.80%
	3	23	51	72	6	2		
	4	27	80	125	40	4		142
笑う	5	31	64	140	59	39		16.95%

3、芸能と「笑い」

3-1　古典芸能への理解

古典芸能を理解することは文化の継承はもとより、伝統的に受け継がれた「言葉遊び」や「洒落」を理解することであり、日本固有の伝統的な「笑い」つまり「日本の普遍的な笑い」が解るようになるということである。

そこで、古典芸能と言われるものに対する経験（接触）の差異を調べたのだが（表㉗）、「歌舞伎」「文楽（2016 年のみ）」はほぼ同数、「能・狂言」も大差なく、見たことが「よくある」に「当てはまる」のは 1 割にも満たないが、「落語」になると「当てはまる」が 2 割強に増える。

「古典芸能」に対する苦手意識、固定観念もあるだろうが、実際に授業で「古典落語」を見せても、「面白いところもあるが言葉が難しくて理解できないところが多い」という感想が目に付く。

表㉗　あなたは以下に挙げた芸能を授業（過去も含めて）以外で見たことがありますか？

2016			1	2	3	4	5	
	落語	全くない	149(31.1%)	112(23.4%)	107(22.3%)	94(19.6%)	17(3.5%)	よくある
	能・狂言	全くない	269(56.4%)	93(19.5%)	72(15.1%)	37(7.8%)	6(1.3%)	よくある
	歌舞伎	全くない	273(57.4%)	95(20%)	70(14.7%)	30(6.3%)	8(1.7%)	よくある
	文楽	全くない	274(57.4%)	95(20%)	71(14.9%)	31(6.5%)	6(1.3%)	よくある

2017			1	2	3	4	5	
	落語	全くない	150(39.8%)	63(16.7%)	85(22.5%)	62(16.4%)	17(4.5%)	よくある
	能・狂言	全くない	236(62.6%)	65(17.2%)	53(14.1%)	16(4.2%)	7(1.9%)	よくある
	歌舞伎	全くない	247(65.5%)	58(15.4%)	52(13.8%)	13(3.5%)	7(1.9%)	よくある

合計			1	2	3	4	5	
	落語	全くない	299(34.9%)	175(20.4%)	192(22.4%)	156(18.2%)	34(4%)	よくある
	能・狂言	全くない	505(59.1%)	158(18.5%)	125(14.6%)	53(6.2%)	13(1.5%)	よくある
	歌舞伎	全くない	520(61%)	153(17.9%)	122(14.3%)	43(5%)	15(1.8%)	よくある

3-2　「笑い」の傾向

現在も大阪では「よしもと新喜劇」が健在であるが、今の若者は「お笑い番組」と言えば「トークバラエティー番組」を想定するのではないだろうか。

そこで追大生の「笑い」の好みを聞いてみた。

まずは「**以下の 3 つの「笑い」パターンの中であなたが好きなものはどれですか？**」（表㉘）

「笑い」のパターン例が 3 つだけなので一概には言えないが、「一発ギャグ系」や「音楽ネタ系」は好みの差が大きく、それに比べて「ダジャレや言葉の掛け合い系」を好む者が半数を超えている。

表㉘　以下の 3 つの「笑い」パターンの中であなたが好きなものはどれですか？（複数回答）

		2016	2017	合計
1	一発ギャグ系	109	114	223
2	音楽ネタ系	113	86	199
3	ダジャレや言葉の掛け合い系	312	251	563

次の設問「**あなたは下に挙げた「お笑い」の中でどれが一番好きですか？**」（表㉙）の結果「漫才」「バラエティー」「コント」の順で好まれている。これらは「ダジャレや言葉の掛け合い系」であり、表㉙の結果を裏付けているのではないだろうか。

表㉙　あなたは下に挙げた「お笑い」の中でどれが一番好きですか？

		2016	2017	合計
1	落語	13(2.75%)	6(1.65%)	19(2.27%)
2	漫才	181(38.7%)	130(35.8%)	311(37.2%)
3	コント	107(22.6%)	73(20.1%)	180(21.5%)
4	ピン芸人（1人芸）	10(2.11%)	9(2.48%)	19(2.27%)
5	バラエティー番組	138(29.2%)	129(35.5%)	267(31.9%)
6	特になし	24(5.07%)	16(4.41%)	40(4.78%)

4、言葉と笑い

前項の「笑い」の傾向を受ける形で、ほんの数例ではあるが言葉遊びの理解度を試してみた。昔ながらの「しゃれことば」と単純な「ダジャレ」である。(表㉚)

「次に挙げた冗談（言葉遊び）のうち、面白いとおもったものに◎、理解できたが面白くないものに○、理解できなかったものに×を記入してください」

結果は以下の通りである。

表㉚次に挙げた冗談のうち、面白いと思ったものに◎、理解できたが面白くないものに○

1、ウサギの逆立ちや！（小言を言われたときに使う）→耳が痛い

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	6(1.41%)	107(25.1%)	314(73.5%)
2017	7(2.13%)	90(27.4%)	232(70.5%)
合計	13(1.72%)	197(26.1%)	546(72.2%)

2、ゆがんだ松の木や！（急いでいるときに使う）→走（はし）らにゃならぬ

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	11(2.58%)	95(22.3%)	320(75.1%)
2017	5(1.52%)	68((20.6%)	257(77.9%)
合計	16(2.12%)	163(21.6%)	577(76.3%)

3、A「男の子が池にはまったらどんな音がする？」 B「ぽっちゃ〜ん！」

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	64(15.0%)	278(65.0%)	86(20.1%)
2017	51(15.6%)	221(67.6%)	55(16.8%)
合計	115(15.2%)	499(66.1%)	141(18.7%)

4、A「隣の家に囲いができたで」 B「へー」

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	40(9.35%)	290(67.8%)	98(22.9%)
2017	32(9.76%)	226(68.9%)	70(21.3%)
合計	72(9.52%)	516(68.3%)	168(22.2%)

5、A「この井戸は深いか？」 B「ほんのソコまでや」

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	49(11.4%)	249(58.0%)	131(30.5%)
2017	50(15.4%)	197(60.6%)	78(24.0%)
合計	99(13.1%)	446(59.2%)	209(27.7%)

擬音系のダジャレには理解を示すものの「面白くない」という反応であり、古典的な所謂「言いぐさ」は理解ができないようだ。特に「耳が痛い」ということ自体理解できていないのであり、また、ウサギの逆立ちを真面目にとらえすぎて、洒落に繋がらないと考えられよう。

いずれにせよ、これだけの例で軽々に判断はできないが、日常の環境の変化や語彙の多少が「言葉遊び」に大きく影響を与えていることは間違いないであろう。特に多くの語彙のストックで同音異義を楽しむ「駄洒落」の様なものは、今後ますますバリエーションが少なくなってゆくであろう。

では追大生は果たして「**人を笑せられるようになりたい**」（表㉛）と思っているのだろうか。

表㉛　人を笑せられるようになりたい

2016	思わない	1	2	3	4	5	なりたい
		34	58	147	140	100	
		7.10%	12.10%	30.70%	29.20%	20.90%	

2017	思わない	1	2	3	4	5	なりたい
		19	47	104	102	98	
		5.10%	12.70%	28.10%	27.60%	26.50%	

合計	思わない	1	2	3	4	5	なりたい
		53	105	251	242	198	
		6.20%	12.40%	29.60%	28.50%	23.30%	

2016 年約 50%、2017 年は約 54%、半数以上の学生が「人を笑わせるようになりたい」と望んでいる。基本的には「笑わせたい願望」はあると考えてよい。

さて、最後の設問は「**なんでも『笑い』にしようとする大阪気質は？**」（表㉝）好きか嫌いか。2016 年回答数 482 人中約 58% の 278 人が「大好き」、2017 年の回答数 377 人中約 61%225 人が「大好き」、2 ヵ年平均約 59% が「なんでも『笑い』にしようとする大阪気質」が好きなのである。

表㉝　なんでも「笑い」にしようとする大阪気質は？

2016	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		21	53	127	144	134	
		4.40%	11.10%	26.50%	30.10%	28.00%	

2017	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		18	18	110	110	115	
		4.90%	4.90%	29.60%	29.60%	31.00%	

合計	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		39	71	237	254	249	
		4.60%	8.40%	27.90%	29.90%	29.30%	

因みに、この設問に対する「出身地別回答」を付録として載せておく。

年度	大阪出身	大阪以外	合計
2016年	252	230	482
2017年	191	186	377
合計	443	416	859

なんでも「笑い」にしようとする大阪気質は？府下・府外比較

2016	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
	【大阪出身】	9(3.59%)	25(9.96%)	70(27.9%)	67(26.7%)	80(31.9%)	
	【大阪以外】	12(5.26%)	28(12.3%)	57(25.0%)	77(33.8%)	54(223.7%)	

2017	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
	【大阪出身】	7(3.70%)	9(4.76%)	58(30.7%)	54(28.6%)	61(32.3%)	
	【大阪以外】	11(6.04%)	9(4.95%)	52(28.6%)	56(30.8%)	54(29.7%)	

合計	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
	【大阪出身】	16(3.64%)	34(7.73%)	128(29.1%)	121(27.5%)	141(32.0%)	
	【大阪以外】	23(5.61%)	37(9.02%)	109(26.6%)	133(32.4%)	108(26.3%)	

まとめ

今回は 2016 年度の結果と 2017 年度の結果を見比べながら考察したが、すべての設問に関して大きな差は見られなかった。同じ設問をベースに経年調査を続けて行きつつ、新たな設問を加えることによって、目的達成のための手立てを見出すことができれば幸いである。

今後、願わくば大阪のみならず関西圏、中京圏、関東圏と調査の範囲を広げることも視野に入れたい。

2016、2017 年度調査対象者出身地

■出身地県

	出身地県	件数
1	大阪府	443
2	兵庫県	150
3	京都府	82
4	滋賀県	51
5	奈良県	38
6	和歌山県	13
7	愛媛県	6
8	高知県	6
9	岡山県	5
10	広島県	5
11	徳島県	5
12	福井県	5
13	愛知県	4
14	香川県	3
15	中国	3
16	福岡県	3
17	沖縄県	2
18	群馬県	2
19	静岡県	2
20	長野県	2
21	鳥取県	2
22	東京都	2
23	北海道	2
24	茨城県	1
25	熊本県	1
26	佐賀県	1
27	三重県	1
28	鹿児島県	1
29	石川県	1
30	千葉県	1
31	長崎県	1
32	栃木県	1
33	不明	14
	合計	859

■出身地都市

	出身地県	地市	件数
1	大阪府	大阪	125
2	京都府	京都	45
3	大阪府	吹田	38
4	大阪府	茨木	35
5	兵庫県	尼崎	32
6	大阪府	堺	31
7	大阪府	豊中	29
8	大阪府	高槻	28
9	兵庫県	神戸	24
10	大阪府		19
11	滋賀県	大津	18
12	兵庫県	伊丹	18
13	兵庫県	宝塚	17
14	大阪府	東大阪	16
15	大阪府	枚方	16
16	兵庫県	西宮	15
17	奈良県	奈良	14
18	大阪府	八尾	12
19	大阪府	箕面	12
20	兵庫県	川西	11
21	大阪府	寝屋川	9
22	大阪府	門真	9
23	大阪府	摂津	8
24	大阪府	池田	8
25	兵庫県	三田	8
26	大阪府	大東	7
27	京都府	長岡京	6
28	滋賀県		6
29	大阪府	守口	6
30	奈良県	生駒	6
31	京都府	京田辺	5
32	京都府	向日	5
33	滋賀県	野洲	5
34	兵庫県		5
35	和歌山県	和歌山	5
36	京都府		4
37	広島県	福山	4
38	滋賀県	草津	4
39	大阪府	岸和田	4
40	大阪府	交野	4
41	大阪府	四条畷	4
42	大阪府	和泉	4
43	奈良県	香芝	4
44	兵庫県	篠山	4
45	愛媛県	松山	3
46	岡山県	岡山	3
47	京都府	亀岡	3
48	京都府	京丹後	3
49	京都府	城陽	3
50	滋賀県	近江八幡	3
51	滋賀県	栗東	3
52	滋賀県	東近江	3
53	大阪府	河内長野	3
54	徳島県	徳島	3
55	福井県	福井	3
56	和歌山県	新宮	3
57	愛知県	名古屋	2
58	京都府	宇治	2
59	京都府	舞鶴	2
60	群馬県	前橋	2
61	高知県	高知	2
62	高知県	室戸	2
63	滋賀県	守山	2
64	滋賀県	長浜	2
65	大阪府	泉南	2
66	大阪府	大阪狭山	2
67	大阪府	島本町	2
68	大阪府	富田林	2
69	鳥取県	米子	2
70	奈良県	天理	2
71	福井県	越前	2
72	福岡県	北九州	2
73	兵庫県	加東	2
74	兵庫県	高砂	2
75	兵庫県	丹波	2
76	兵庫県	姫路	2
77	北海道	旭川	2
78	和歌山県		2
79	和歌山県	紀の川	2
80	愛知県	みよし	1
81	愛知県	日進	1
82	愛媛県	四国中央	1
83	愛媛県	松前町	1
84	愛媛県	新居浜	1
85	茨城県	取手	1
86	岡山県	伊原	1
87	岡山県	備前	1
88	沖縄県	うるま	1
89	沖縄県	那覇	1
90	京都府	久世郡	1
91	京都府	向白	1
92	京都府	四条	1
93	京都府	木津川	1
94	熊本県	熊本	1
95	広島県	広島	1
96	香川県	高松	1
97	香川県	坂出	1
98	香川県	三豊	1
99	高知県	四万十	1
100	高知県	南国	1
101	佐賀県	久留米	1
102	三重県	名張	1
103	滋賀県	粟東	1
104	滋賀県	甲賀	1
105	滋賀県	寺山	1
106	滋賀県	多賀町	1
107	滋賀県	彦根	1
108	鹿児島県	鹿児島	1
109	静岡県		1
110	静岡県	浜松	1
111	石川県	金沢	1
112	千葉県	習志野	1
113	大阪府	阪南	1
114	大阪府	三島郡	1
115	大阪府	松原	1
116	大阪府	泉佐野	1
117	大阪府	泉大津	1
118	大阪府	能勢町	1
119	大阪府	柏原	1
120	大阪府	豊能町	1
121	中国		1
122	中国	青島	1
123	中国	南通	1
124	長崎県	長崎	1
125	長野県	松本	1
126	長野県	辰野町	1
127	東京都	新宿区	1
128	東京都	武蔵野	1
129	徳島県		1
130	徳島県	名西郡	1
131	栃木県	宇都宮	1
132	奈良県		1
133	奈良県	宇陀	1
134	奈良県	橿原	1
135	奈良県	葛城	1
136	奈良県	五條	1
137	奈良県	御所	1
138	奈良県	桜井	1
139	奈良県	生駒郡	1
140	奈良県	大和郡	1
141	奈良県	大和郡山	1
142	奈良県	大和高田	1
143	奈良県	福原	1
144	福岡県	福岡	1
145	兵庫県	加古川	1
146	兵庫県	三木	1
147	兵庫県	小野	1
148	兵庫県	川辺郡	1
149	兵庫県	川辺郡猪名川町	1
150	兵庫県	多賀郡多賀町	1
151	兵庫県	朝来	1
152	兵庫県	龍野	1
153	和歌山県	橋本	1
154	不明		14
	合計		859

追手門学院大学・笑学研究所 「笑いに」関するアンケート
（2017年実施）

このアンケートは、追手門学院大学「笑学研究所」が本学の学生を対象に行う「若者の笑い」に関する意識調査です。「笑う」という行動、「笑わせる」という行為など、円滑なコミュニケーション活動にとって大変重要な要素である「笑い」に関する研究の資料として、またコミュニケーションスキルアップのためのプログラム開発に活かすべく実施しますので、よく考えて回答にご協力ください。

男性	女性	年齢　　歳	学部	出身地　　都・道・府・県　　市

Q1　あなたはよく喋るタイプですか？　　無口 1 2 3 4 5 よく喋る

Q2　あなたは大勢の前で喋るのは得意ですか？　　苦手 1 2 3 4 5 得意

Q3　友人とよく喋りますか？　　喋らない 1 2 3 4 5 よく喋る

Q4　家族とよく喋りますか？　　喋らない 1 2 3 4 5 よく喋る

Q5　楽しい家庭ですか？　　そうは思わない 1 2 3 4 5 とても楽しい家庭だ

Q6　家族を笑わせますか？　　笑わせない 1 2 3 4 5 笑わせる

Q7　あなたはよく冗談を言いうタイプですか？　　言わない 1 2 3 4 5 よく言う

Q8　（Q7で3，4，5を選んだ方のみお答えください）
Q冗談をいう場合、その場の空気をよく考えますか？　　考えない 1 2 3 4 5 よく考える

Q9　あなた自身はよく笑うタイプですか？　　笑わない 1 2 3 4 5 よく笑う

Q10　（Q9で3，4，5を選んだ方のみお答えください）
Qどういうときによく笑いますか？なるべく具体的にお答えください

Q11　あなたは目立ちたがり屋ですか？　　控えめ 1 2 3 4 5 目立ちたがり

Q12　人を笑わせるのは得意ですか？　　苦手 1 2 3 4 5 得意

Q13　（Q12で3，4，5を選んだ方のみお答えください）
Qあなたは漫才で言うとどちらのタイプですか？　　ツッコミ 1 2 3 4 5 ボケ

Q14　（Q12で1，2，を選んだ方のみお答えください）
Qあなたは人を笑わせたいと思いますか？　　思わない 1 2 3 4 5 笑わせたい

Q15　あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？　　好意的ではない 1 2 3 4 5 好意的

Q16　あなたは以下に挙げた芸能を授業（過去も含めて）以外で見たことがありますか？
1、落語　　全くない 1 2 3 4 5 よくある
2、狂言　　全くない 1 2 3 4 5 よくある
3、歌舞伎　　全くない 1 2 3 4 5 よくある

Q17　以下の3つの「笑い」パターンの中であなたが好きなものはどれですか？（複数回答可）
1、一発ギャグ系　　2、音楽ネタ系　　3、ダジャレや言葉の掛け合い系

Q18　あなたは下に挙げた「お笑い」の中でどれが一番好きですか？
1、落語　　2、漫才　　3、コント　　4、ピン芸（一人芸）　　5、バラエティー番組　　6、特になし

Q19　あなたは吉本新喜劇を見ますか？（テレビ、舞台どちらでも可）
全く見ない 1 2 3 4 5 よく見る

Q20　（Q19で3，4，5を選んだ方のみお答えください）
Qすきな新喜劇の役者あるいはギャグを具体的にお答えください

Q21　あなたが好きな「お笑い芸人」ベスト3を挙げてください
1、　　2、　　3、

Q22　次に挙げた冗談（言葉遊び）のうち、面白いと思ったものに◎、理解できたが面白くないものに○、理解できなかったものに×を□の中に記入してください
1、□　ウサギの逆立ちや！（小言を言われたときに使う）→耳が痛い
2、□　ゆがんだ松の木や！（急いでいるときに使う）→走（はし）らにゃならぬ
3、□　A「男の子が池にはまったらどんな音がする？」B「ぼっちゃ～ん！」
4、□　A「隣の家に囲いができたで」B「へー」
5、□　A「この井戸は深いか？」B「ほんのソコまでや」

Q23　人を笑せられるようになりたい　　そうは思わない 1 2 3 4 5 とてもなりたい

Q24　なんでも「笑い」にしようとする大阪気質は？　　嫌い 1 2 3 4 5 大好き

ご協力ありがとうございました
追手門学院大学・笑学研究所